



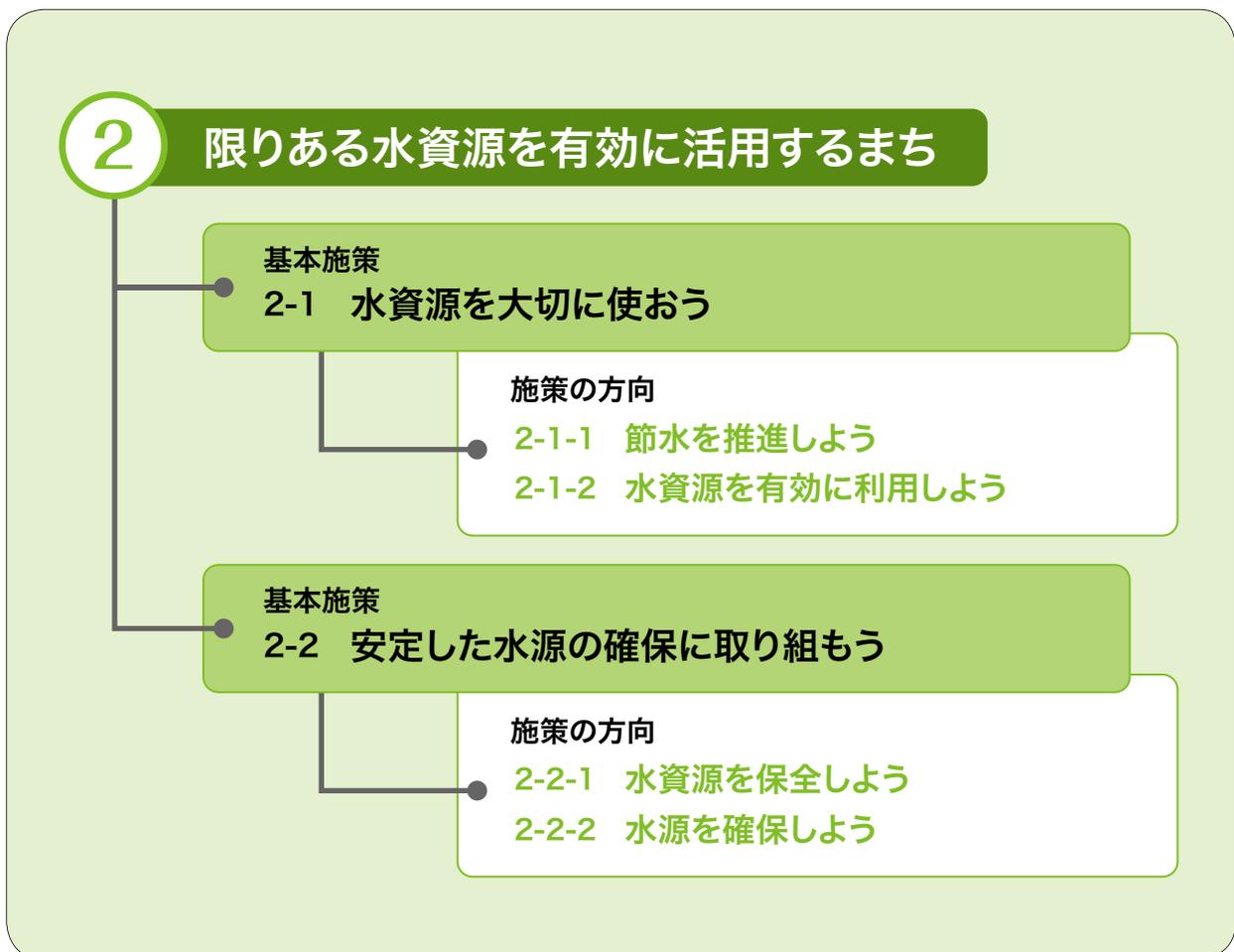
限りある水資源を有効に活用するまち

本市は、全国的にも有数の少雨地域に属することに加え、上水道の主な水源は、石手川ダムと重信川水系の地下水のみであり、水源能力はせい弱です。そのため、水資源対策は、本市の重要な課題となっています。

市民アンケートの結果をみても、「食物・水の安全性」が「健康・医療」に次いで関心の高い社会的問題となっており、市民の「水」に対する意識の高さがうかがわれます。

また、市民会議では、水を大切にしている意識は育まれているものの、雨水や中水の有効活用などさらなる水の循環利用の推進が必要との意見が挙げられました。

これらのことを踏まえ、本市では、将来にわたって、気象状況などに左右されることなく、「水」を安定的に供給するため、節水を推進し、水の使用量を抑制するとともに、雨水利用を始めとする水資源の有効利用や保全に努め、限りある水資源を有効に活用するまちづくりを推進します。



2 限りある水資源を有効に活用するまち

2-1 水資源を大切に使おう

市民及び事業者への継続的な啓発活動により、節水意識の浸透を図るなど、地域が一体となって水資源を大切に利用します。

2-1-1 節水を推進しよう

(1) 節水に関する情報共有

- 各種広報媒体やイベントを活用して、日常の生活の中で節水を実践する具体的な方法などの情報を分かりやすく発信していきます。
- 節水活動に関連する団体や国、他市との連携・情報交換を図り、節水への取り組みをより効果的かつ継続的に推進します。

(2) 節水機器の普及促進

- 節水効果の高い機器に関する情報提供や機器の購入等に対する補助制度の実施により、節水機器の普及促進を図り、「節水」の実践を促進します。



2-1-2 水資源を有効に利用しよう

(1) 雨水利用の推進

- 市有施設へ先導的に雨水利用設備を導入するとともに、雨水貯留施設の設置などを行う市民や事業者に対し、助成金を交付します。
- 各種広報媒体による啓発、また市民活動団体との連携による啓発活動の継続により、市民・事業者の雨水利用に対する意識の高揚と行動を促します。

(2) 下水処理水・中水の有効利用

- 下水処理水の河川への還流や農業用水及び雑用水への利用を推進し、水資源の有効利用を図ります。

(3) 漏水の防止

- 漏水調査による漏水箇所の早期発見・早期修繕に取り組むほか、漏水の発生状況、水道管の耐用年数などを考慮し、計画的な管路の更新を図ります。

2-2 安定した水源の確保に取り組もう

上水道の主な水源である、石手川ダムの貯留水と重信川水系の地下水を有効に活用できるよう、保全に努めるとともに、渇水時にも安定した水の供給が行えるよう、新たな水源の開発や周辺市町との連携強化に努めます。

2-2-1 水資源を保全しよう

(1) 水源かん養¹林の整備と保全

○石手川ダム上流域の水源かん養林の整備と保全を市民と協働で継続して行います。

(2) 地下水の保全

○地下水の安定性を高めるため、流域関係者と地下水の保全策について検討できる仕組みづくりを推進します。

(3) 透水性設備の整備促進

○公共工事において、雨水を地中に浸透させる透水性の舗装や枳の整備を促進します。

2-2-2 水源を確保しよう

(1) 新規水源の開発

○「長期的水需給計画」に基づき、新規水源の確保に努め、安定給水が可能な体制の構築を目指します。

(2) 緊急時の連携強化

○「渇水等緊急時における相互応援協定」に基づき、応急給水など、緊急時における応援活動について、関係市町と情報交換を密に行うことで、協定の円滑な運用を図ります。

¹ P42に語句説明あり。



雨水利用が進むと・・・

もし **松山市中** の戸建住宅の屋根から、すべての雨水を集めたら？

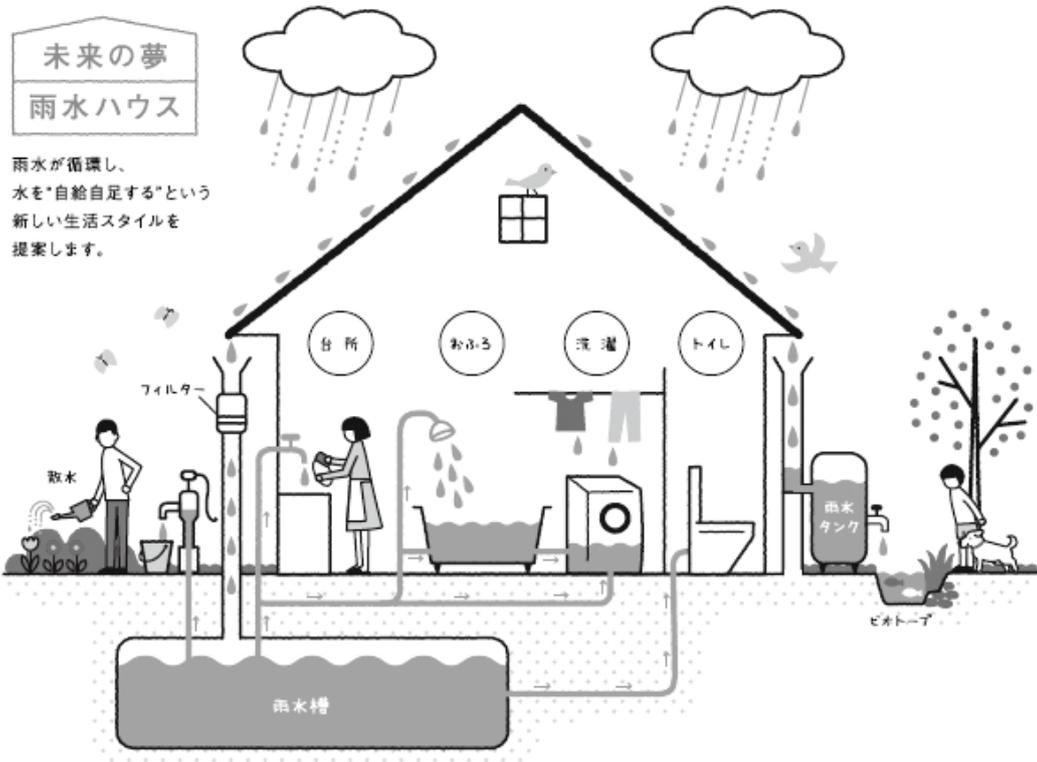
松山市の戸建住宅の屋根に降った雨をすべて貯めると
 $126,000戸 \times 70m^2 \times 1,300mm = 約1,147万t$
 石手川ダムに換算すると**1.8杯分**※1

(松山市内の一戸建住宅の戸数=約126,000戸 ※2
 平均屋根面積=約70㎡ ※3
 松山市の年間平均降水量=約1,300mm ※4)

1日当たりの給水量に換算すると、
 松山市民が使用する**約82日分**の水を
 まかなうことができる。

(松山市の1日平均給水量=139,000t ※5
 $約1,147万t \div 約139,000t = 約82日$)

※1：石手川ダム利水容量630万t ※2：松山市政情報課ホームページ「平成20年住宅・土地統計調査結果」より ※3：松山市の一戸建て住宅の平均建築面積（平成22年度松山市建築確認分）
 ※4：過去30年間の平均値。気象庁ホームページより ※5：「平成22年度松山市公営企業間統計年報」より



出典：雨日和（発行・編集・製作：雨水楽舎）





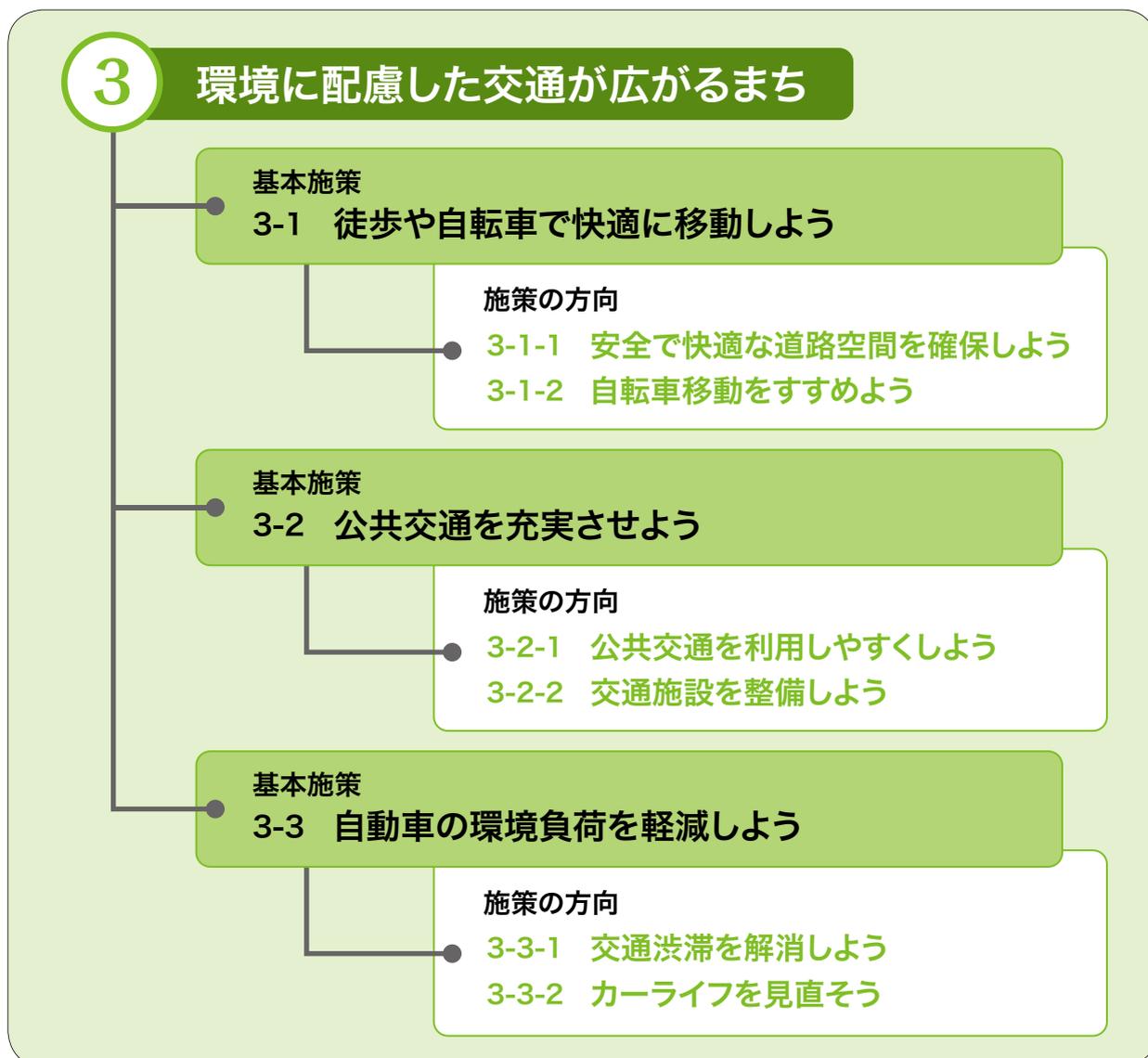
環境に配慮した交通が 広がるまち

「低炭素型社会」の実現に向けて、交通分野における温室効果ガスの削減を図るため、地域特性を活かして効果的・効率的で環境にやさしい、コンパクトな都市づくりを進めていくことが必要です。

市民アンケートの結果を見ても、通勤・通学、買い物など日常生活が便利なまちであることが居住地の環境として最も望まれています。

また、市民会議では、あらゆる人が、環境にやさしい交通を快適に利用できるまちづくりが重要であるとの意見が挙げられました。

これらのことを踏まえ、本市では、歩行者や自転車利用者が安心して快適に利用できる道路空間を創出するとともに、公共交通の利用促進、利便性向上を図り、環境に配慮した交通が広がるまちづくりを推進します。



3 環境に配慮した交通が広がるまち

3-1 徒歩や自転車で快適に移動しよう

歩行者と自転車利用者が快適に通行できる道路空間を創出するとともに、自転車を利用しやすい環境を整備することによって、環境にやさしい徒歩や自転車での移動を促進します。

3-1-1 安全で快適な道路空間を確保しよう

(1) 道路空間の再配分

○電線の地中化や道路配分の見直しなどにより、歩行者と自転車が安全で快適な空間を形成し、歩いて楽しい道路空間の創出をめざします。

(2) 放置自転車などの削減

○路上に放置される自転車の適正な整理・撤去、違法駐輪を防止するための啓発パンフレットの配布やマナー向上の情報発信などにより、放置自転車などの削減を図ります。

(3) 駐車対策の推進

○中心市街地周辺の既存駐車場を有効活用することで、市内中心部への自動車の流入を抑制するとともに、附置義務による駐車場の適正配置を行うことで、快適な歩行空間を確保します。

3-1-2 自転車移動をすすめよう

(1) 駐輪場の確保

○市営駐輪場を運営することとあわせて、附置義務や建設補助の制度により、民間駐輪場の確保を図ります。

○鉄道駅や電停、バス停などへのサイクル&ライド¹を推進するため、駐輪場の整備を検討します。

(2) 自転車利用環境の整備

○各種広報媒体を活用した啓発及び自転車利用者への指導や声掛けなどにより交通ルールの徹底とマナーの向上を図ります。

○自転車通行部分のカラー舗装や路面標示の設置などにより、自転車が安全で快適に走行できる環境を整備します。

○商業施設や観光拠点、駅を結ぶレンタサイクルの拡充を検討します。



1 最寄りのバス停・駅まで自転車で行き、公共交通機関に乗り換えること。街中への自動車の流入を抑制する仕組み。

3-2 公共交通を充実させよう

環境にやさしい電車やバスの利用を促進するため、公共交通の利便性を向上させるとともに、拠点となる主要な駅の整備やバリアフリー化の推進などを行います。

3-2-1 公共交通を利用しやすくしよう

(1) 路面電車・バスネットワークの再編

○バスの利便性向上や地域公共交通の維持確保に向け、地域住民や民間事業者と協力しながら、路面電車・バスネットワークの再編や新たな交通システムの導入を検討します。

(2) 公共交通システムの利便性向上

○公共交通機関の利便性向上を図るため、拠点となる駅や電停などにおける、乗り継ぎ利便性の強化について検討します。

○駅と接続するコミュニティバスやパーク&ライド¹の導入など、交通結節機能の強化に向けて検討を行います。

(3) サービス水準の向上

○まちあい環境の整備改善など、公共交通、駐車・駐輪施設などの利用者に安心感と満足感を提供できるサービスの質的向上を図ります。

3-2-2 交通施設を整備しよう

(1) 駅前広場・駅周辺施設の整備

○松山市駅やJR松山駅は、広域交通拠点機能を強化し、松山市の玄関口にふさわしい、質が高く利便性の高い都市空間づくりを進めます。

○交通結節点として乗り継ぎがスムーズにできるよう、施設の整備や充実を図ります。

○JR松山駅周辺については、景観や環境に配慮した空間の整備を行います。

(2) バリアフリー化の推進

○高齢者や障がい者などが安心して公共交通機関を利用できる環境を確保するため、低床式路面電車やノンステップバスの導入支援や、駅や電停のバリアフリー化を推進します。

¹ 車両を公共交通機関の乗降所に設けた駐車場に停車させ、そこから公共交通機関を利用し、目的地に行く方法

3 環境に配慮した交通が広がるまち

3-3 自動車の環境負荷を軽減しよう

市内中心部への通過交通の抑制や道路環境の整備などにより、渋滞の解消・緩和を図るとともに、環境性能の高い自動車の普及や環境に配慮した運転方法の啓発などに努め、自動車利用による環境負荷の低減を図ります。

3-3-1 交通渋滞を解消しよう

(1) 広域交通網の整備

○陸・海・空の交通拠点として、松山インターチェンジ、JR松山駅、伊予鉄道松山市駅、松山空港、松山観光港を「広域交通拠点」として位置付け、安全で快適な空間の確保など、交通結節機能や交流機能などの整備・充実を図ります。

(2) 都心部への通過交通の排除

○周辺部への駐車場の整備・誘導などにより、市内中心部の通過交通を処理し、生活拠点内への通過交通流入を抑制します。

3-3-2 カーライフを見直そう

(1) 環境配慮型自動車利用の促進

○ハイブリッド車¹や電気自動車に代表される環境配慮型自動車の利用を促進し、運輸部門における温室効果ガスの削減に努めます。

(2) エコドライブ²の推進

○自動車の効率的な運転方法を啓発することにより、運転中に消費するエネルギーの削減に努めます。



本市が所有する電気自動車

1 複数の異なる動力を持つ自動車。ガソリンを主に電気を補助的に利用する自動車が普及している。

2 環境にやさしい運転手法。無駄な燃料の消費を抑え、二酸化炭素の排出を少なくする自動車の運転、操作方法。無駄なアイドリングを控える、急発進、急加速をしない、細目に点検するなど。